

2018年3月8日

報道関係各位

日本通運株式会社

【告知・取材のご案内】
新開発の発泡スチロール容器を用いた錦鯉の輸送について
～季節、仕向地を問わない高品質輸送の実現に向けて～

日本通運株式会社（社長：齋藤充）は、株式会社錦鯉新潟ダイレクト（社長：田中誠）、EPS（発泡スチロール）製造メーカーのトーヨー工業株式会社（社長：近藤大輔）と3社共同で開発した、高密度EPS容器を用いた錦鯉のドイツ向け輸送を実施します。

昨年4月、高密度EPS容器を使用したマレーシア向けのトライアル輸送で、高い定温性の検証ができたため、今回は大口となる約500尾の錦鯉をドイツ向けに輸送します。梱包状態の重量試算では、従来のカートン容器を使用した梱包と比較して、約30%の総重量削減（＝30%の輸送費削減）ができます。

【輸送内容】

当歳、二歳魚を中心とした約500尾の厳選された錦鯉をEPS容器40ケースに収容し梱包。梱包後、チャータートラックに積載し成田空港に輸送。通関許可後、ドイツフランクフルト空港へフライト。

【輸送スケジュール】

3月16日（金）

16：00 概要説明および取材対応

場所：新潟県長岡市滝谷町1709-1

株式会社錦鯉新潟ダイレクト

対応：・株式会社錦鯉新潟ダイレクト

・トーヨー工業株式会社 事業開発部

・日本通運株式会社 航空事業支店 国際貨物第四営業部

17：00 取材終了、梱包作業開始

21：00 トラックへの積込、出発

3月17日（土）

06：00 成田空港貨物ターミナル到着

検査、輸出通関

11：00 成田空港発フランクフルト向け JL407/17便

15：15 フランクフルト空港到着

同日、荷受人手配にて通関、配送

We Find the Way



【高密度EPS容器の特長】

- ・定温性に優れた発泡スチロールの専用容器（高密度EPS容器）の特性を活かし、温度変化の激しい輸送環境においても錦鯉の活性を保つことができ、年間通して錦鯉の輸出が可能
- ・高い定温性により錦鯉の活性を保てるため、従来のカートン容器より多くの錦鯉を収容でき、輸送コストの削減になる

【地場産業への貢献】

出荷元の長岡市は現在、世界的にブームとなっている錦鯉の発祥の地です。

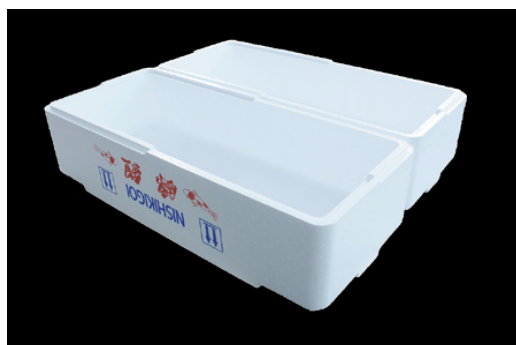
長岡市は錦鯉を市の魚と認定しており、新潟県では観賞魚部門で県魚に認定しています。輸送コスト削減に多大な効果のある錦鯉専用EPS容器の開発は、世界規模での錦鯉鑑賞をますます普及させ、同県内の錦鯉生産における国際競争力強化という点で、地場産業への多大なる貢献が期待されています。

【高密度EPS容器と従来の容器との比較】

	高密度EPS容器		カートン容器（従来）	
定温機能 ＝活きの良さを保持	◎	カートンに比べ約4倍の定温機能あり	△	外気温度に左右される
容器の収容効率 ＝航空運賃を削減	◎	高い定温性により高密度での錦鯉収容が可能	△	高い密度で収容すると錦鯉の活性が低下
梱包後の重量 ＝航空運賃を削減	◎	容器自体が軽量なうえ蓄冷材が不要になり割安	△	着地が熱帯だと蓄冷材が必要
1容器当りのコスト	△	カートンに比べて高価※ 量産による低下を期待	○	発泡スチロールに比べ安価
梱包作業後の仮置き	○	雪の中に置いても、容器が濡れない	×	雪が降ると、屋内に入れるかシートを掛ける

※1 輸送当りのトータルコストは削減

We Find the Way



(高密度E P S 容器のイメージ)

今後は、高い定温性を活かし、近年需要の多いインドネシア、マレーシア、中近東など年間平均気温の高い地域に対しても、錦鯉に好適な水温を維持したまま輸送することを計画しています。

世界的に錦鯉への関心・需要が高まっている中、新たな輸出先の開拓によって産地の活性化に貢献できることを期待しています。

このたび、輸送の趣旨説明と作業風景の取材対応を行いますので、取材いただける場合には、別紙により参加申し込みのほどよろしくお願いいたします。

以 上

◇本件に関するお問い合わせ先

日本通運(株)広報部 担当：神・福田

TEL：03-6251-1454 e-mail:ko_ho@nittsu.co.jp